

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	まんまる塾		
○保護者評価実施期間	2024年 9月 15日		2024年 9月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2024年 9月 10日		2024年 9月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	2024年 10月 28日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性にあわせた療育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・月案、週案の立案の際、運動・認知・社会性を組み合わせた活動プログラムを組みあわせるようにしている ・各グループ用により細密な日案を作成。活動の難易度や量、提示する情報量を調整し、毎日打ち合わせをしている ・同じ活動であってもスモールステップで設定し、子どもが達成感をもちやすいようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが興味関心をもって取り組むことができるよう、新しい活動の企画に取り組む ・年齢や発達特性にあわせた活動の展開を考える
2	関係機関との連携(保護者、小学校など)	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の希望に応じて、もしくはこちらからの情報共有を目的に定期的に面談を行っている ・子どもを取り巻く大人の見解が統一されるよう、発達特性と子どもの行動を関連付けて情報共有している 	<ul style="list-style-type: none"> ・内外部の研修を利用し、発達特性や小学校、中学校での特別支援について理解を深める
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	居室内の構造化	<ul style="list-style-type: none"> ・個別対応が重なった場合、スペースの確保が難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・パーテーションなど、空間を区切るようなアイテムを活用する ・感覚刺激を緩和するアイテムの充実
2	アセスメントの実施 <ul style="list-style-type: none"> ・フォーマルアセスメントの実施スキルと分析力 ・行動分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達特性についての知識の習得度にバラつきがある ・内部研修や伝達研修の実施頻度が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の研修を利用し、発達特性の理解を深める。具体的には発達障害についての概念理解、子どもの発達過程と課題(運動・言語・認知面)領域の研修参加 ・内部研修の充実 外部研修を受けた者からの伝達研修の設定。ケース会議の充実(行動と発達特性を関連付けて援助方法を考える)を図り、発達特性や療育活動について共通認識のもと業務にあたる
3	活動内容についての保護者との情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に月間プログラムとして公表できていない ・余裕をもって活動を企画することができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、計画の過程をフォーマット化し、立案業務の効率化を図る ・アプリの全体通知機能を活用し、翌月の活動予定表(目的を含め)を公表する

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 放課後等デイサービス まんまる塾

公表日 10/28/24

利用児童数 33 名

回収数

21 名

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・体制整備	1 こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	20	1				活動に応じた室内の用途について、視覚提示したものを作成し、配布する	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	19			2	・とても丁寧に支援していただいています。その分ご負担無いか「わからない」としました ・手厚くみて頂いて感謝しておりますが、その分手が足りないなどあるかも分かりません	所属スタッフについていつも確認できるよう掲示する	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21						
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間になっていると思いますか。	21					・大変そう思います	
適切な支援の提供	5 こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21				・言葉で説明することが苦手な息子のために、楽しくゲームをしながら言葉を学べるようなプログラムを組んでいただいています ・成長に応じて大変丁寧に支援して頂けると感じています ・必要に応じて検査の実施や子どもが理解できる手立てとして視覚化して伝えること、困り感への気付きとその経緯や背景を言語化していただいています。親としても我が子を理解する糸口が見えた気がします		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	21						
	7 こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21						
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	20				1		保護者向けのガイドラインをいつでも閲覧できるよう、待合スペースに設置しておく。個別支援計画を説明する際に間違いに説明する
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	20				1		利用後の活動報告にて、計画書の内容と関連して伝える
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21					・子どもたちが飽きないように、いろいろなプログラムを組んで頂いて、息子も楽しそうにその日活動した内容を話してくれます	
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	2	2	5	11		・年齢的に交流を嫌がることもあったり、子どもによって違いますので必要に応じて考えられていると思います	対人面での課題をもつ利用児もおり、交流の目的、場所、内容については十分に検討して実施する旨、保護者会などで伝える
保護者への説明等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21						
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19				2		個別支援計画を説明する際に間違いに説明する
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	2			7	・面談の内容ということだったら「はい」である	ニーズに応じて発達特性の概論、進路についての保護者向け研修会実施を検討する
	15 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	20			1		・いつも細やかなケアをして頂いています	利用後の活動報告にて、計画書の内容と関連して伝える
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20	1				・たくさん相談させて頂け、助言いただけ助かっています	連絡アプリを活用し、情報提供や相談受付のお知らせを定期的に行う
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	20	1				・とてもそう思います	
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1	5	9			どのような支援を希望されるか、個別ニーズに応じた対応を基本とし、必要に応じて保護者同士の交流場、きょうだい児交流の場の提供を検討する	

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	20			1		連絡アプリを活用し、情報提供や相談受付のお知らせを定期的に行う
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	21					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	15	1		5		連絡アプリを活用し、情報提供や相談受付のお知らせを定期的に行う
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	20			1		個人情報の取り扱いについて、保護者向けのガイドラインをいつでも閲覧できるよう、待合いスペースに設置しておく。個別支援計画を説明する際に丁寧に説明する
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	18			3		安全管理、衛生管理について保護者向けのガイドラインをいつでも閲覧できるよう、待合いスペースに設置しておく。個別支援計画を説明する際に丁寧に説明する
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	13	1		7		災害時の備えや避難計画について、保護者向けのガイドラインをいつでも閲覧できるよう、待合いスペースに設置しておく。実施計画と報告は連絡アプリを通して通知する
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	1		3		安全管理について保護者向けのガイドラインをいつでも閲覧できるよう、待合いスペースに設置しておく
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	16		1	4	・そのようなケースが無いため「わからない」としました	安全管理について発生から処理の過程についてフローチャート等作成し、保護者向けにいつでも閲覧できるよう、待合いスペースに設置しておく
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	21					・先生方が子どもの話をたくさん聞いてくれて、ほめてくれるので、子どもも安心して楽しく通えていると思います ・母子ともに大変満足しております。本人は楽しみに通っています。いつも困りごとを聞いて下さり、対策を考えていただけ心強く感じております
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21					
	29	事業所の支援に満足していますか。	20	1				お子さんの様子について定期的な面談や連絡アプリを活用し情報共有に努める。また定期的な面談の機会を提供する

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		まんまる塾		公表日		2024 年 10 月 28 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6				
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6				
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	同じ活動でもグループを分けて行うなど、限られたスペースの有効活用に努めている	作り付けの棚など撤去する必要あり。同時に物品を補充するスペースを確保する	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		居室掃除、物品の消毒を徹底している		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	0	職員の入職時には、業務一覧表で業務の全体像を提示し、業務分担を行っている。また児童指導員の業務については月間スケジュール、1日の流れ・業務を時系列で視覚化して提示。変更の都度、全体で確認し配布している		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者評価をもとに、全体で保護者の意向を共有した。改善点についても案を出し合う		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		毎日、終礼にて活動内外で気づいたことを報告し合っており、都度改善策を決めて実施している		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		必要に応じて検討する	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6				
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	2	外部・内部研修の活用と、活動立案の際に目的の明確化、振り返りの際に目的に対しての評価を確認するようにしている	アセスメントについては職員間での差がある	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6				
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6				
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6				

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6			
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	現在のところ、該当ケースはないが、必要があれば連携をとる。そのため幼児期の情報もフェイスシートなどに記入してもらい、把握している	必要に応じて連携をとる	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	現在のところ、該当ケースはないが、必要があれば連携をとる	必要に応じて連携をとる	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて連携をとる	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	6		機会があれば交流をとりたいと考えるが、対人面での課題をもつ利用児もおり、交流の目的、場所、内容については十分に検討して実施したい	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6			
保護者への説明等	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	ペアトレとしては実施していないが、家庭でできる特性に合わせた支援内容を面談の際に伝えている		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6			どのような支援を希望されるか、個別ニーズに応じた対応を基本とし、必要に応じて保護者同士の交流場、きょうだい児交流の場の提供を検討する
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6				

	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		機会があれば交流をとりたいと考えるが、対人面での課題をもつ利用児もあり、交流の目的、場所、内容については十分に検討して実施したい
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		